

# 宝木だより

第20号

発行 宝木地区まちづくり協議会

(宝木地域コミュニティセンター内)

TEL・FAX 028-624-0531

(題字 北條信男氏 書)



# 宝木ぶらり

②

とちぎ健康の森



この地には、昭和19年に宇都宮市立療養所が創設され、翌20年国立療養所梅花寮として、長期治療を要する患者の療養施設として運営されていました。当時は針葉樹と落葉樹が混在する鬱蒼とした林で、周囲は塀により囲まれ市民の自由な出入りは規制されていたのです。平成5年に国立療養所の統合により廃止され、その敷地が栃木県に移管されたのです。

少子高齢社会の進展する中で、誰もが健康で生きがいを持ち快適に暮らせる社会を望んでいます。県は、こうした社会ニーズに応え県民の生涯健康と心のあたたかな福祉社会の構築をめざし、平成9年「とちぎ健康の森」がオープンしました。

施設は、温水プール・トレーニング室等備えた「健康づくりセンター」、シルバー大学校・シルバー人材センターなどを持つ「生きがいづくりセンター」、「リハビリテーションセンター」、若草特別支援学校」が併設され、人間ドックの施設を持つ「保健衛生事業団等」などが入居しています。



## 宝木中初優勝

県下春季野球大会

6月に開催した中学生野球の春季県下大会において、宝木中学校が初の優勝を勝ち取りました。大きな自信になつたことでしよう。

屋外にはテニスコート、グラウンドゴルフができる広場があり、また、建物を囲む林には、ウォーキングコースも設けられ毎日多くの市民が楽しそうに歩いています。このように素晴らしい施設を備えた健康の森は、まさに県民の福祉・健康づくりの殿堂であり、宝木地域の名所としても親しまれています。

康の森は、宝木地区のほぼ中央に位置し、宝木小学校西側に接した敷地面積21haの広大な林にある。

## 住んで良かったと思えるまちに

市長を囲みまちづくり懇談会



8月26日(水)午後7時から市長を迎えて、宝木地区住民約60名が参加して開催されました。

懇談会は、大金まちづくり協議会長・佐藤市長のあいさつのあと、懇談がはじめられました。

主な質疑応答は次の通りです。

**Q1** 「高齢者の健康づくりのための公園の活用」について公園が団地造成などで沢山あるが、それはすべて子どもの遊具だけが設置されている。せっかくの公園を高齢者も利用できるもの、即ち高齢者のリハビリー的な、また、運動機能の維持・増進にも利用できる器具の設置を検討してほしい。

特に健康の森は広大でウォーキングコースもある。県に働きかけてほしい。

**A1** 健康や運動の器具はいろいろ種類がある。現在市販されているもので



部が直結し、大谷観光にも大いに期待される。それに伴い、大谷街道の歩道設置を含む拡幅も計画している。山崎街道も現在も拡幅工事が進んでおり、数年には完成する予定である。さらに交差点の改良、道路標示等を行い安全確保を図る。

**Q3** 東中丸自治会地域を貫通する生活道路、即ち作新裏から西中丸に通ずる道路は狭く、車の擦れ違いの際容易ではない。まして災害時などは、車の立往生なども予想される。早期拡幅を検討してほしい。

誰でも利用できる「全身を伸ばしたり軽いストレッチ等の運動器具」、「体を動かすトレーニング器具」などたくさんの種類があります。地域でどのようないいものが良いか検討され、公園管理課に要望してください。

県にも働きかけてみますが、地元自身が働きかけをおねがいしたい。

**Q2** 大谷スマートインターチェンジ建設に伴う安全対策について

インター設置は地域の利便性・観光の面からも早期開通を望んでいる。反面これまで安全に通学できた生活道路や裏通りの安全が脅かされる。これらの安全確保のため計画道路中丸野沢線の早期開通と狭い生活道路の安全対策を進めてほしい。

**A2** 大谷インターは、平成32年度開通を目指して計画中である。

**A1** 健康や運動の器具はいろいろ種類がある。現在市販されているもので

し丁寧にやつてほしい。  
A5 後程現場を教えてほしい。直ちに修理します。(これは数日後修理)

## 敬老会

宝木中演劇部  
「夕鶴」を公演

9月20日 健康の森で敬老会を行いました。本年度は、1633名を招待し、百歳以上は4名でした。

今年のアトラクションは、宝木中学校演劇部による「夕鶴」の演技でした。

ご存知の通り「鶴の恩返し」で農にかかるた鶴が助けてくれた「与ひよう」のために、自らの羽を抜いて生地を折るという物語です。孫のような学生の熱演に、楽しいひと時になつたことでしょう。

**Q4** 駒生に広大な旧射撃場跡地がある。これについて市は積極的に検討され高齢者がグランドゴルフができるような公園化に進めてほしい。

**A4** 射撃場跡地は国の所有であり、以前からも検討の対象になつているが國もなかなか動いてくれない。

グランドゴルフは屋板運動場を利用してほしい。

**Q5** 道路の補修を依頼しても、極め

て簡単ですぐ破損してしまう。もう少





## 元気はっしん西が岡

西が岡小学校創立30周年

西が岡小学校は、県営・市営の宝木団地や宝木小学校周辺の急速な宅地造成に伴い、児童数が激増した宝木小学校から昭和60年4月1日に分離独立して開校しました。

開校時は校舎が建設中であつたため、一学期は宝木小学校で過ごし、夏休み

中に多くの方々の協力を得て移転したのです。

### 銀杏・竹林・藤棚 コノデガシワ

開校時に校門の両側に移植された「銀杏」、学校林として本市初めての「竹林」、情操教育のための「飼育舎・小鳥小屋」、木陰と憩いの「藤棚」、宝木地区象徴の宝の木「コノデガシワ」、

昔の暮らしを知る郷土資料室「ふるさと教室」など、西が岡小学校には、宝木地区の方々にご協力いただいて設置されたものが数多くあります。創立30周年に当たっては、桜プロジェクトとして東北地方に桜を送る苗木を育て、観察池付近にサクランボの木を植樹しました。

正に学校は、地域教育の拠点です。

### 地域の人々に支えられて

これまで30年、保護者や地域の方々の並々ならぬご尽力に支えられながら、学校の施設・設備を始め教育環境が整えられてきました。その中で子どもたちは明るくすこやかに育っています。



### 育成会

#### 夏季球技大会

7月19日西が

岡小学校において、15チーム150名が参加し夏の球技大会を開きました。この日は正に暑さ真つ盛り、気温3

開校当初からの教育目標である「明るく元気な子ども」「よく考え学習する子ども」「心豊かで思いやりのある子ども」を目指し、未来に向かって躍進できるように取り組んでいます。創立記念日は、過去を振り返り、現在を見つめ直し、未来への歩むべき方向を見い出す日でもあるのです。

表題のスローガン「元気はっしん西が岡」は4年生の高久龍平さんの作品ですが、西が岡小の未来への意気込みがこめられています。



### 学童野球県下大会 宝木ファイターズ優勝

7月開催の大会で、平成20年以来二度目の優勝を飾りました。

した真夏日で、熱中症で倒れる子どもがないかも心配されましたが、「暑さなんのその」の意気込みで頑張っていました。

子どもたちにとって、夏の素晴らしい思い出でとなつたことでしょう。

優勝チームは、次のとおり。  
ころがしどッヂ 2の2 A  
ドッヂビー 2の2 B

# 自分たちの命を 自分たちで守るために

## 宇都宮市総合防災訓練

8月22日(土)に市主催の総合防災訓練が西が岡小学校で行われました。

この訓練は、毎年地域を変えて行うもので、市の中心部を震源とした震度7の地震が発生したことを想定に、灾害対策本部(市長が本部長)を設置し、市消防本部、警察、自衛隊、消防団、婦人防火クラブ、自主防災会、宝木中学校など74団体、2千名が参加した大掛かりな訓練でした。

宝木地区から約300名が参加し、地震発生時の身を守る訓練からスタートしました。



訓練、いろいろな事象を想定した救助訓練などを実施しました。地区の訓練ではできない応急給水では、大人は給水袋へ、子どもは持参した水筒に給水を受けました。倒壊した家屋から負傷者を

所救出などの普段見られない訓練が行われました。このようない防災訓練に参加することによって、防災家族会議のきっかけとなり、防災意識の高まるこ

とを期待しています。

会・自治会・宝木中少年消防クラブが自衛隊、日本赤十字社、災害救助犬と共に実戦ながら行いました。また、NTTによる通信サービスの復旧、電力の復旧、毒劇物災害対応、ヘリコプターによる高高度輸送による救助活動なども実施されました。



## 老人クラブ育成特別功労賞

安納房江さん



10月27日市文化会館で開催した市老人クラブ連合会創立50周年記念大会において、地区老人クラブ連合会長の安納房江さん(写真)が連合会育成特別功労賞を受賞しました。

安納さんは、平成21年から地区会長、市連合会の副会長も務めていますが、自分の経験から高齢の方に、「クラブに入会することは家から外に出るきっかけになります。外出すれば、人と会話ができます。歩くことでも健康になります。」とクラブへの入会を訴えていました。

人生の最期を迎えるに当たることは、死んでしまうことが、残された家族への思いやりであり、生きた証となるはずです。とお話し下さいました。



**「木曜講座」**  
**人生の最期を考える**

多気山持賣院  
長老 伊藤永峯氏

長老は「父の死によつて大学卒業後に直ちに後を継ぐことになりました。他の寺で修行をしたかったがこれができなくなつたのです。しかしこれを前向きに考え、東京八王子から宇都宮まで歩いて帰ることにした。ただ歩くハイキングではなく、僧侶の支度をして托鉢しながらの帰途に向かつたのです。」と語り始めました。そしてその道のりの中で体験されたいろいろなことを事例をあげて話され、これが人生について多くの勉強になつたと。それは、人は他人(ひと)によって生かされているということです。

そのつは、写真を撮つておこう。葬儀になつてあわてなく撮つておこう。これが、残された家族への思いやりであり、生きた証となるはずです。とお話し下さいました。